

目 次

序

第1章 特許制度の歴史(1)

1. 特許制度には長い歴史がある…………… 1
2. 制度の誕生…………… 2
3. 500年の歴史…………… 2
4. 創造を守る近代的制度へ…………… 10

第2章 現行制度の本質とあらまし(13)

1. 特許は高度の技術的思想の創作…………… 13
2. 実用新案は形の小発明…………… 25
3. 工業デザインと言われる意匠…………… 28
4. 商標は商品の顔…………… 32

第3章 こんな発明が特許になる(39)

3・1——特許法の中の発明とは何か(39)

1. 発明の定義…………… 39
2. 定義外の発明…………… 40
3. 特許にならない発明…………… 45

3・2——特許をとるための必要条件は何か(47)

1. 特許要件…………… 47
2. 産業上の利用性…………… 48
3. 新規性…………… 50
4. 進歩性…………… 53
5. 先願…………… 60
6. 新規性喪失の例外…………… 63

3・3 — 発明にはどんな種類があるか (67)

- | | |
|-------------------|----|
| 1. カテゴリーによる発明の分類 | 67 |
| 2. カテゴリーの相異と発明の異同 | 69 |

第4章 発明をしたらどうすればよいか (71)**4・1 — 出願手続のあらまし (71)**

- | | |
|-----------|----|
| 1. 特許出願 | 71 |
| 2. 審査, 審判 | 72 |
| 3. 明細書の作成 | 80 |
| 4. 意見書の作成 | 87 |

4・2 — 弁理士は何をしてくれるか (90)

- | | |
|---------------|----|
| 1. 弁理士の役割 | 90 |
| 2. 弁理士の選択 | 91 |
| 3. 弁理士への依頼の仕方 | 91 |

4・3 — 企業で発生した発明の手続 (93)

- | | |
|----------------|----|
| 1. 特許法の規定 | 93 |
| 2. 職務発明 | 94 |
| 3. 職務発明の取扱い | 96 |
| 4. 職務発明出願の際の注意 | 96 |

第5章 特許係争にいかに対処すべきか (99)**5・1 — 特許係争の種類 (99)**

- | | |
|-----------------|-----|
| 1. 侵害行為差止請求訴訟 | 99 |
| 2. 損害賠償請求訴訟 | 100 |
| 3. 不当利得返還請求訴訟 | 101 |
| 4. 信用回復措置請求訴訟 | 102 |
| 5. 補償金支払請求訴訟 | 103 |
| 6. 差止請求権不存在確認訴訟 | 103 |
| 7. 仮処分 | 104 |
| 8. 証拠保全 | 105 |

9. 刑事上の訴訟	105
5・2——特許係争はどんな時に起こるか (106)	
1. 特許と技術	106
2. 特許権侵害	108
3. 侵害とならない行為	110
5・3——係争を起こさせない準備態勢 (112)	
1. 特許承認	112
2. 特許の技術的範囲	114
3. 特許請求の範囲の解釈	116
5・4——係争が起こったらどうするか (119)	
1. 警告	119
2. 訴訟	121
3. 二面作戦の展開	124
5・5——解決への道 (126)	
第6章 特許文献はいかに利用すべきか	
1. 特許明細書の役割	129
2. 技術情報としての利用	141
3. 権利情報としての利用	144
4. 企業情報としての利用	149
第7章 ノウ・ハウと特許の関係 (152)	
7・1——ノウ・ハウとは何か (153)	
1. ノウ・ハウの意味	153
2. ノウ・ハウの定義の変遷	153
7・2——特許とノウ・ハウ (155)	
7・3——ノウ・ハウの法的保護 (157)	
1. 日本	157
2. 米国	158
3. その他の先進諸国	160

4. 発展途上諸国	161
7・4 — ライセンス契約締結前のノウ・ハウの開示 (162)	
1. 秘密保持契約締結以前の開示	162
2. 秘密保持契約と開示	163
3. オプション契約	166
第8章 特許, ノウ・ハウのライセンシング・ビジネス (170)	
1. 実施権とは何か	170
2. 前提条件の調査	177
3. 技術の対価の決め方	182
第9章 ライセンス契約のむすび方 (193)	
1. ライセンス契約の内容	193
2. 契約の交渉はどのように行うべきか	207
3. 契約の締結と履行管理	210
4. 独禁法とライセンス契約	211
第10章 変化への対応を迫られている特許制度 (216)	
1. 変化する特許制度	216
2. 国際社会の中の制度	219
3. 特許制度の重大な転期	221
第11章 企業の特許管理 (233)	
11・1 — 特許管理の三本の柱 (233)	
11・2 — 発明の誕生から権利化まで (237)	
1. 特許連絡はなぜ必要か	237
2. 発明するのは技術者の義務—新技術者像の形成	238
3. 権利化への道	240
11・3 — 企業防衛の矛と盾 (251)	
1. 防御と攻撃の前提	251

2. 特許法上の争いは公正に……………	251
3. 特許承認の励行—侵害予防の最良の手段……………	254
4. 侵害の救済と排除……………	257
11・4——特許情報は世界で最新の技術情報—経営管理資料として（259）	
11・5——ノウ・ハウ，企業機密は貴重な無形資産—その安全な管理方法（264）	
11・6——ライセンス・ビジネス—そのあり方と活用法（267）	
1. 経営者の責任……………	268
2. 機構と運用……………	269

特許Q & A 49題（275）

資料1 ライセンシングに関する提言10章（298）

—ライセンサーとして—

資料2 国際技術移転の問題点（306）

—特にクロス・ライセンスングについて—

資料3 技術移転と経済発展力の推進力（311）

資料4 国際的技術導入契約に関する認定基準（321）

索引（323）

イラストカット：石関詠子